

要 望 書

八代圏域における産科医師の確保・育成について

令和6年8月
八代市・氷川町

八代圏域における産科医師の確保・育成について

熊本大学におかれましては、日頃より八代圏域の保健・医療行政の推進にご尽力いただいておりますとともに、圏域に住む多くの住民の健康と安全・安心に寄与いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、八代圏域におきましては、地域周産期中核病院である熊本労災病院の分娩取扱休止に伴い、令和6年2月以降は、熊本総合病院が産科対応を、熊本労災病院が小児科対応を担う体制となりました。

地元自治体としましては、住民が慣れ親しんだ地域で、安全かつ安心して、妊娠・出産ができる環境は不可欠であり、その基盤となる周産期医療提供体制が、将来にわたって安定的に維持されることが最も重要と考えております。

全国的にも産科医師不足が問題となっている中、熊本県においてはさらに高齢化の課題も加わり、より厳しい状況にあります。熊本大学におかれましては、八代圏域における周産期医療提供体制の維持に向け、産科医師の確保・育成に特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年8月5日

八代市長

氷川町長

中村博生

藤本一臣

